

## － ガ ラ ス －

材料研究室風に表現するとガラスは二酸化けい素 (SiO<sub>2</sub>) を主成分として構成されていますが、例えばガラスに鉛を入れることによって屈折率の大きいクリスタルガラスとなったり、その材料・製造法・装飾なども様々なようです。

工芸としては、アール・ヌーヴォー様式等で活躍したエミール・ガレ、ドーム兄弟、ルネ・ラリック等の作品が有名ですが、なかなか美術館や展覧会でしか本物を見ることはできません。でも、そのような美術品に近いものだけでなく他にもモーゼル、バカラ、サン・ルイ、キスリンガーなども本当に綺麗だと思いますので一度は見てください。材料や製造では、微量のウランを混ぜ真っ暗な中で紫外線ランプをあけると黄緑色の蛍光を出すウランガラスやガラスに酸化クロムを内在させ光の種類によって、たとえば太陽光線下では濃い暗緑色、人工光線下では暗赤色に見えるアレキサンドライト等があるようです。また、装飾としてはガラスに研磨材をつけてクリスタルの表面に動植物等を装飾する技法エングレーヴィング技法、日本ではカット技法の江戸切子など様々な技術があるようです。

その中でモーゼルというチェコ共和国のガラスメーカーであります。別にサロンに載せるからといって紹介料を頂いているわけではありません。このメーカーはドイツ国境近くの温泉保養地カルロヴィ・ヴァリー（ボヘミアガラス発祥の地）に1857年ルードウィック・モーゼルが（1833-1916）ガラス装飾工場を創立したのはじまり、そのレリーフカット、グラヴィールの技術、エナメル彩においても最高の技術を持っているようです。というわけで、綺麗なカタログをもらおうと会社にメールで依頼すると送られてきたのは何と通常によく目にする綺麗な写真入の商品カタログではなく、昔かたぎな実寸大の大きさの寸法で技法、デザイン作者・製作年などを細かく記載したデザイン画のようなものを何枚も送ってきました。意図的かどうかは別にして、歴史的な背景を感じさせ繊細で綺麗な作品（製品）を支えているのは熟練した職人の技術があるからだといわんばかりのデザイン画に逆に新鮮で温かみを感じさせられました。

我々のプレゼンテーションもそうなのかもしれませんね。画一的手法や新しい手法にばかりとらわれて技術を表現し伝えようとしています。技術的原点にもどった基本的な手法を使って伝えるのも逆に新鮮でインパクトが強いのかもかもしれませんよ。

（材料研究室長 田口 史雄）

\* \* \* \*

表紙右上記号 ISSN 1346-6747の説明

ISSNはInternational Standard Serial Number (国際標準逐次刊行物番号)の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD (国際逐次刊行物データシステム) という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館 ISSD 日本センターから割り当てられたものです。